



犬山
つがおかんのん
継鹿尾觀音
寂光院

大悲代受苦者
施無畏者

〈不安と恐怖を取り除いて安らかなる心を与えて下さる菩薩さま〉

追悼
祈願
東日本大震災 殉難者
被災者安穏・被災地復興



寂光院 ご本尊
千手觀音
<十一面千手千眼觀世音菩薩>

寂光院は千手観音様のお寺です。古くから宗旨宗派を超えて靈験あらたかな「継鹿尾の観音様」と親しまれています。さて、「觀音經」には観音様は「この娑婆世界に遊びたもう」と説かれています。この場合の「遊ぶ」というのは「遊学（故郷を離れて他の土地に行く）」という意味ですから、観音様はもともと、この娑婆世界の方ではありません。観音様の故郷は阿弥陀様の世界、西方極楽浄土です。阿弥陀様の命令でこの娑婆世界（つまり我々の住むこの世）の苦しみ悩みを救わんがために派遣されてみえたのです。



施代 無受 畏苦

犬山・寂光院山主

まつ
平
實
胤

終えて極楽世界に戻られました。

原子力発電所は全国に五十四基あります。原発事故も日本中いつどこで起きるとも限りません。今避難を余儀なくされて不自由な生活を送らざるを得ない被災地の皆さま方はまさに観音さまです。私達だつたかもしれませんのに、私達の代わりに苦を引き受けくださいつているとしか言いようがありません。

そして私も観音様なら、被災地の皆様の心を我が心とせねばなりません。人の一生はまさに菩薩としての一生です。いま私達に問われているのは「やるのではなく、させていただく」、「あげるのではなく、もらつていただく」という心ではないかと思います。

その救う方法はまず「代受苦（だいじゆく）」、つまり相手の心をわが心として、相手の苦しみを代わつて引き受けくださる、ということです。そして「施無畏（せむい）」、不安や恐怖を取り除いて大丈夫だよという安らかなる心を与えてくださるということです。そこで観音様は三十三に姿を変えると説かれます。三十三という数字はありとあらゆるという意味です。相手に応じて姿を変えるというのですから、この世に六十五億の民あれば、六十億とおりの観音様がいらっしゃるということです。ということは私の隣の人は観音様かもしれません。いや、観音様なんだといふことです。そしてその観音様はこの娑婆世界で菩薩としての役目を終えて寿命が尽きたら、また故郷「極楽世界に」お帰りにな

りますね。（観音經では、観音様は「大悲代受苦」でこの世に一人でも苦しみ悩む人があれば、絶対に故郷極楽浄土に帰らない。つまりこの娑婆にとどまり続けるというお誓いを立てられた菩薩様です。だから私たちにはいつでも安心して観音様を念ずればいいと

いふことです。）

さて、三月十一日午後二時四十六分、東日本を襲つた大地震、大津波で亡くなられた方は四ヶ月を経た七月十日現在一五、五十四名、行方不明の方五、三四四名、この二万を超える人々はまさに観音様でいらっしゃいます。私達の代わりに苦を引き受けられたとしか言いようがありません。地震や津波の被害は日本中いつどこで起くるとも限りません。間違いなく代受苦の菩薩の役目を

な な つき

七七月参り ご利益は「安心」「生きがい」「豊かな心」

○月に一度、この靈山（パワースポット）で身も心もリフレッシュ！ 心豊かなひとときを！

○「七七月参り」とは

「七七月参り」とは、毎月1回7ヶ月参詣し、それを7回繰り返すお参りの仕方で七七月、つまり合計49回お参りする 것입니다。

この七という数字は単に目標となり、励みとなるだけでなく、仏教では仏様のお悟りの境地を表し、仏縁が深くなる数字であります。

○「七七月参り」の意義<健康・健脚・豊かな心>

7回続けて月参りをしようとなれば、どの月から始めるにしても、必ず酷寒か酷暑の季節どちらかを通過せねばなりません。

こうした登山参詣の行を通して<喜びと感謝と敬いの心を養い>日々の生活を充実させるのが本来の意義であります。

○「七七月参り」の功德<七ヶ月お参りすると大願成就！！>

七七月参りの御本尊大隨求尊（だいすくいぐそん）は「求めに随って自在である尊い仏さま」でありますので、当山は諸願成就の祈願道場として長い歴史を歩んで来ました。

○「七七月参り」の受付

七月参りは毎日受付、山門奥事務所の総受付へおいでください。

そこで必ず<七七月札>に朱印を戴き、<護摩木>をお受けください。

○「七七月参り」の作法と巡礼

<最高の心の養い>をしていただくために

- 先ず<本堂>ご本尊千手觀音様にお参り
- 次に護摩木を手に<隨求堂>の回廊を右廻りに三回巡礼する
- 十分祈念して護摩木を本堂正面の三宝に納める

○「七七月参り」の月例縁日

- (隨求堂本尊) 大隨求尊ご縁日 5日
- (本堂本尊) 千手觀音ご縁日 18日
- 5日・18日のご縁日に限り、名鉄犬山遊園駅から寂光院直通バスが運行されます。

※七七月参りは月参りですから、月例縁日には限りません。

いつでもご都合のよろしい日にお参りください。

毎日朝8時～夕5時まで山門奥事務所で受付させていただきます。



国登録文化財〈隨求堂〉



秘佛〈隨求尊〉



〈隨求堂〉右廻り三回巡礼

申込書	〒	ご 住 所	お 名 前	おとし
七七月まいり				

寂光院友の会「千手会」のおすすめ



ひろさちや仏教講演会

●「千手会」

寂光院は交通至便の処にありながら大自然に囲まれ、清爽の気が漂う、愛知県下最古の千手観音さまの靈場です。昨今「天下のパワースポット」として若人に人気で参詣する人々に「安らかな心」「生きる勇気」をプレゼントします。「千手会」は寂光院の本尊である千手観音さまから戴いたお名前です。

●「心豊かに生きる喜び」

千手会は寂光院に登山参詣することによって、心身をリフレッシュし、仏法に接して、日々の出遇いを喜んで受けとめ、「生きるつて素晴らしい」と喜びを深め、心を豊かにして、人格を高めあう集いです。

●「千手会の催事」

一、寺報誌の発行、教化紙等の配布
やすらぎ説法（松平實胤山主ほか）

毎月第二日曜日十一時より
ただし・二月はお休み

一、巡礼の集い（随时）全国伝統靈場等を巡拝
とつても楽しい旅ですよ！
（十一月）
一、やすらぎコンサート（四月）・やすらぎ寄席

会則

寂光院は古来より「繼鹿尾の觀音さま」として親しまれ、宗旨・宗派を超えて心の拠り所とされてまいりました。
千手会は宗旨・宗派を問わず、寂光院に心を寄せ下さる皆様の集いです。
千手会にはわざらわしい規約は一切ありません。
千手会の催事もすべて自由参加です。
千手会では会員の皆様に喜んで戴ける会であります。お一人でも多くの方々にご吹聴ください。

●「会費」

※正会員 一口 三千円（年間）
※賛助会員 一口 三万円（年間）
(口数はご随意です)

●「正会員になると」

- ・千手会輪袈裟を授与致します。
- ・寺報「千の手」誌（随時）をお届けします。
- ・「仏教の生活」誌（季刊）をお届けします。
- ・会員証（千手観音カード型お守り）をお届けします。
- ・年度末に素敵なカレンダーをさしあげます。

●「賛助会員になると、右記のほか

- ・初観音祈願会（二月十八日）、九万九千日（八月九日）、二大祭に、ご招待申しあげ、貴家皆様のご清栄をご祈願して松平實胤山主より特別大護摩札が授与されます。



千手会申込書

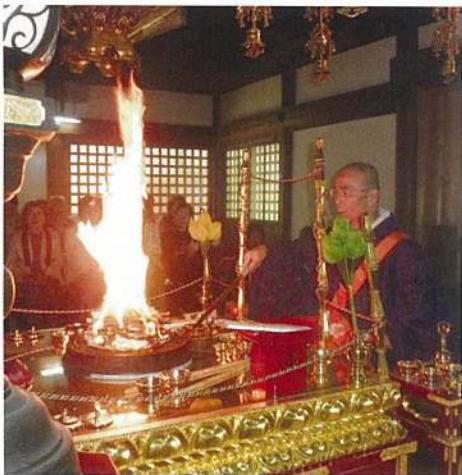
年 月 日

正会員	口	円	ご住所 (〒 -)
			ご芳名
賛助会員	口	円	おとし 才
			お電話 ()
以上申し込みます。			

大震災 お見舞い

東日本大震災で被災されました皆様方に謹んでお見舞い申し上げます。皆様方に平穏な日常生活が一日でも早く叶いますよう、よりよい復興再生が叶いますよう心よりお祈り申し上げます。また、被災地で支援活動に全力を尽くしておいでになる皆様方に、深く敬意と感謝の意を表します。

当寂光院も義損金のご協力を願いし、ご参詣の皆様と殉難者追悼・被災地復興祈願(大護摩供)をさせていただいております。(三月十四日を第一回として七月十二日に第十一回目の義損金を中日新聞社会事業団にお届けさせていただきました)今後とも宜しくお願い申し上げます。



復興祈願大護摩祈祷

犬山寂光院 山主 松平實胤

東日本大震災・義損金寄託のご報告

二十三年三月十二日、当山山門前に義損金箱を設置

三月十四日「やすらぎ説法」会場にて義損金のご協力を呼びかけ。

三月十八日「七七月参り・月例大護摩ご祈祷」にて参詣の皆様と共に被災地復興大祈祷を厳修。以後毎月五日十八日「月例大護摩ご祈祷」にて被災地復興大祈祷を繼續。

三月二十一日、「春彼岸会」にて、檀信徒と共に大震災殉難者追悼法要を厳修。

四月十日「花まつり記念やすらぎ説法&コンサート」会場で義損金のご協力を呼びかけ、以後毎月「やすらぎ説法」会場にて義損金募金活動を継続

七月十日「やすらぎ説法」終了後、皆様方からの延べ十一回目の義損金を中日新聞社会事業団に寄託、総額五六八、二六九円(詳細は寂光院ホームページ「お知らせ」を参照下さい)なお今後とも義損金募金は継続いたしますのでよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

とき とき
ところ 参加資格
寂光院聖徳殿
千手会会員(一般の方のご参加もお待ち致しております)
おられます)

講師
仏像ガール・広瀬郁美先生
(昨年九月十二日、寂光院の「やすらぎ説法」特別講演会でお招きをいたしました。再度の御登壇です)

千手会総会記念講演会

平成二十三年十一月十三日(日)十一時

寂光院聖徳殿
千手会会員(一般の方のご参加もお待ち致して

おられます)

おられます)



「東日本大震災三陸大津波」

物故者精靈法要並びに復興祈願法要・法話

とき

七月十四日

午前

岩手県陸前高田市

金剛寺

午後

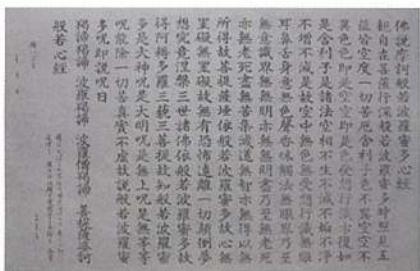
岩手県大船渡市

長源寺

三月十一日、大津波で被災されました金剛寺様の跡地特設会場にて厳修されました法要で被災者の皆様に法話をさせていただきました。同じく長源寺様で厳修された法要で被災者である檀信徒の皆様に法話をさせていただきました。想像を絶するご苦労をされているご寺院の皆様、檀信徒の皆様の前では、言葉はいかにもうつろで、心の中の想いをどのように伝えるか、私の法話歴の中でも一番心に残る経験でした。

お写経の集い 〈般若心経を読む・聞く・書く〉

まず、お清め作法・ご一緒に読経・松平山主の法話・般若心経の写経



般若心経



お写経風景



写仏教室



作品「大日如来」

発行所 繼鹿尾觀音院
〒四八四一〇九一
愛知県犬山市繼鹿尾山
平成二十三年八月九日発行(第四十八号)

寂光院への連絡方法

- ①電話 0568(61)0035
- ②FAX 0568(61)5953
- ③〒振替 00800-4-40664
- ④ホームページ <http://www.jakkoin.com/>

- 日時 第二・第四日曜日 午前十時～十二時
- 場所 内仏堂
- 納経料 一、〇〇〇円(一巻につき)
- 導師 松平實胤 山主
- その他 どなたでも自由に参加できます。
写経用具は当方に取り揃えています。

- 日時 毎月第三土曜日 午後一時～三時
- 場所 法輪殿
- 受講料 二、〇〇〇円(教材費は別途)
- 講師 中日文化センター講師 前田道雄 先生
- その他 どなたでも、いつでも始められます。
※やすらぎの郷里写仏展(ご案内)

- 日時 毎月十八日 午後二時～四時
- 場所 内仏堂
- 受講料 二、〇〇〇円
- 師範 名古屋・福生院山主 松平實城師
- その他 どなたでも、いつでも始められます。



ご詠歌教室

写仏教室 〈仏様を描く〉

前田先生の心和む、心癒される仏さまにふれるひとときです。初めての方も大丈夫です。基礎の基礎から始めます。

全く初めての方、大歓迎!! とても楽しく優しく教えてください。

ご詠歌教室 〈仏様にお唱えする〉

- 日時 毎月十八日 午後二時～四時
- 場所 内仏堂
- 受講料 二、〇〇〇円
- 師範 名古屋・福生院山主 松平實城師
- その他 どなたでも、いつでも始められます。

- 日時 毎月十八日 午後二時～四時
- 場所 内仏堂
- 受講料 二、〇〇〇円
- 師範 名古屋・福生院山主 松平實城師
- その他 どなたでも、いつでも始められます。

- 日時 毎月十八日 午後二時～四時
- 場所 内仏堂
- 受講料 二、〇〇〇円
- 師範 名古屋・福生院山主 松平實城師
- その他 どなたでも、いつでも始められます。